

第368号 平成31年1月

東京都農業会議情報

編集及び発行 東京都農業会議

渋谷区代々木2-10-12
TEL 03-3370-7146

新年にあたって

(一社) 東京都農業会議 会長 青山 侑



青山会長

あけまして

おめでとうございます
昨年は全国で災害が相次ぎ、天候も異常でした。今年には明るい年になるといいですね。

新年2月に東京都都市計画審議会に対して土地利用調査特別委員会が行う予定の報告は、基本的考え方や方針を述べた後「将来像を実現する主な取組」を15件提案しています。

その1件目から4件目までは、特定街区や総合設計ではなく、緑地や農地についての項目です。都市計画や土地利用計画の計画で、

緑地や農地に重点が置かれるのは珍しいことです。

これは、3年前の都市農業基本法の成立以来、生産緑地法、都市計画法などが次々と改正され、大都市における農業の重要性がきちんと位置づけられるようになったからでありますし、人々の意識も、身近なところの農業を大切に思うようになったからでもあります。何よりも、東京の農業者の皆さんが新鮮な農産物を提供してきた努力が評価されているからだと思います。

今年、このような時代の変化を具体的な政策として定着させていく年となります。そのために農業委員会と農業会議が一体となって活動していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

大阪府の農業委員会活動などを研究

東京都と大阪府で計72農委会・約140人が参加
農業委員会会長研究会開く

都農業会議は11月26日、27日にかけて、大阪府農業会議(中谷清会長)の協力を得て、大阪市内にて農業委員会会長研究会を開き、都内および大阪府内の農業委員会会長など約140人が参加しました。
1日目は、最初に都内の農業委員会会長を対象に、大阪府の農業や農業委員会活動の概要について府農業会議の鈴木成専務理事より説明がされました。



都市地域での農業経営について話す南氏(左)

次に、大阪府内の農業委員会会長などと合同の研修会として、都農業会議から都内の農業委員会活動について説明し、三鷹市と東大和市から活

第60回東京都農業委員会・農業者大会を開きます

都農業会議と農業委員会地区協議会・連合会は「第60回東京都農業委員会・農業者大会」を平成31年2月22日(金)、午後1時より昭島市のKOTORIホール(昭島市民会館)にて開催します。

大会では「東京農業の確立に関する要望」や「都市農業振興と農地保全に関する」農業委員ならびに農地利用最適化推進委員各位の積極的なご参加をお願いします。



伝統野菜の生産について説明する西野氏

動事例を報告しました。その後、大阪府農業経営者会議理事の南保次氏より都市地域における農業経営について講演しました。

2日目は、全面市街化区域である大阪市内において、伝統野菜を生産する西野孝仁氏、花壇苗を生産する西村友宏氏の経営を現地研究しました。



花壇苗の生産や出荷について説明する西村さん

あきる野市の農地流動化の取組を研究

農業委員・農地利用最適化推進委員現地研究会開く

都農業会議は12月19日に、あきる野市農業委員会（甲野富和会長）の協力を得て、同市にて農業委員・農地利用最適化推進委員現地研究会を開きました。

最初に、都農業会議から農地流動化における農業委員会の役割や活動、農地制度などについて説明しました。

次に、あきる野市農業委員会から同市の農業の概要や農業委員会活動、農地流動化について説明がされました。

現地研究として、新規就農者の長屋太幹氏、工藤健一氏の経営を見学しました。2人とも共同直売所と学校給食への出荷を主軸とした農業を営んでいました。

次に、法人参入をした生活



あきる野市の新規就農者や農業法人の経営を研究した

農地利用最適化に向けた施策推進など決議

東京選出の国会議員と意見交換を実施

全国農業委員会会長代表者集会

11月29日、（一社）全国農業会議所（二田孝治会長）の主催により、全国農業委員会会長代表者集会が港区のメルパルクホールにおいて開かれました。東京からは21区市町

農業者年金の加入推進活動や

制度の概要などを研究

農業者年金制度推進研究会開く

都農業会議は、11月21日に農業者年金制度推進研究会を開き、農業委員会・JA職員、加入推進員（農業委員）など37人が出席しました。

瑞穂町の認定農業者である近藤剛氏による講演では、農業者が社会保障を自らで判断・選択することの重要性に



参加した農委会長らは都選出の国会議員と意見交換をした

常設審議委員会だより

第9回常設審議委員会

12月17日J A東京南新宿ビル会議室で開催しました。

報告

①経過報告と当面の会議開催計画を報告②11月の農地法第4条・第5条の農地転用許可状況を東京都より報告をし、③12月の農地中

協議

①2月22日（金）開催の第60回東京都農業委員会・農業者大会開催要領を決定し、②第45回農業委員会等功労者表彰受賞者を決定③

間管理権の取得と農地利用配分計画の決定および使用収益権の設定を本会から報告しました。

農地管理・流動化推進月間の状況を報告し、④第34回納税猶予適正化協議会の状況を説明⑤特定生産緑地制度説明会の開催、農作物栽培高度化施設関係の概要について説明。また、都議会第4回定例会での農業振興に関する質疑と知事からの答弁について報告しました。

都内全域で農地利用状況調査を実施 重点的な農地パトロールに取り組む

農地管理・流動化推進月間

今年も農地管理・流動化推進月間を8月～10月に設定し、都内農業委員会で一斉に取り組みました。

青梅市では、生産緑地と農用地区域の全筆調査を実施し、農用地区域については、意向調査によって農地中間管理事業による利用権設定に結びつけています。清瀬市では、生産緑地について農地利用状況

動に関する申し合わせや国への要請事項が決議されました。集会の終了後、東京の参加者は衆議院第一議員会館に移動し、東京都内選出の国会議員との意見交換会を開きました。6人の衆議院議員が出席し、東京農業をめぐる幅広い課題について意見を交わしました。

農業委員会活動特集

情報提供活動

農業委員会だより

東京都の44農業委員会のうち、40農業委員会が農業委員会だよりを発行しています。

それぞれの農業委員会が工夫を凝らした誌面を作成し、農業委員会活動や制度の紹介、イベント開催のお知らせなどを農業者だけでなく市民にも広く提供しています。市内農業者への配布に加え市役所や公民館の窓口、産業まつりなどのイベントで配布をしています。

武蔵野市農業委員会は「むさし農」という名称で、年に2回、1000部ずつを発行しています。

制度や農業委員会活動について、市内産野菜を使ったレシピの紹介、「農家見学会」や「市民農園栽培コンクール」などを掲載するほか「生産者の笑顔」と題して、市内農業者を紹介するコラムを連載しています。

東大和市農業委員会は、平成30年より新しく「農の人」という名称で、年に2回、1000部ずつを発行して

います。

写真を多く使用し、市民参加型イベントの紹介や直売所の情報などの掲載に加え、QRコードを活用し情報を提供しています。

市議会議員との意見交換会

小金井市農業委員会は、都市農地を巡る制度が大きく変わるなか、更なる連携の強化を目的に農業委員会と市議会との意見交換会を開催しました。

農業委員10人と市議会の総務企画委員会に所属する8人などが参加し、都市農地の見学や野菜の収穫体験をしました。

意見交換会では、ほぼ地産の食材のみで作られた



農業委員や市議会議員など20人以上が参加した

料理が振る舞われ、新鮮で安全・安心な食材を楽しみつつ活発な議論が行われました。

参加した議員は「実際に農業を体験することで農業の魅力や都市における農地の重要性を認識できた」と話しました。

農地パトロール

立川市農業委員会は、農地の適正管理の推進により農地の最適化の推進を図るため農地パトロールを毎年3回行っています。6月には農業経営部会、12月には土地利用部会と作業を分担し、効率的なパトロールをしております。9月には、農業委員・農地利用最適化推進委員全員で農地利用状況調査を行っています。

相続税等納税猶予制度適用農地、生産緑地を対象に管理不十分な農地や過去のパトロールで経過観察とした農地などを重点的にパトロールし、改善を要する農地などについては口頭指導および文書指導をし、改善を促しています。

市民との交流活動

福生市農業委員会は、農

業を通じた市民との交流イベントである「落花生ウォーク」を開催しています。

市民と農業者との「ふれあいの場」を設けることにより、都市農業に対する理解や潤いをもたらす環境など多様な機能を持つ農地を協働で保全していく目的の「農地ウォーク」と地域ブランドの落花生である「はっぴー☆ナッツ」のPRのため平成25年から、同市農業委員会・JAにしたま・市内農業者の協力により実施しています。

平成30年度は、10月2日に開催し農地の見学や落花生の掘り取り体験、落花生を使用した給食の試食会を行いました。



市民など46人が参加し落花生の掘り取りなどをした

農業委員会と農業者との意見交換会

都内区市農業委員会では、新たな都市農地制度への対応や、広く農業者の要望を聞くため農業委員会と農業者の意見交換会を開催しています。

町田市農業委員会は、農家座談会を開催し、農業者や農地所有者10人が参加しました。

農業委員や農業委員会事務局、町田市土地利用調整課の職員が出席し農業者らと意見交換をしました。

多摩市農業委員会は、農業者と農業委員会の意見交換会を開催し、農業者や農地所有者28人が参加しました。

多摩市の農業の現状や都市農地を取り巻く情勢について説明をした後、意見交換をしました。



多摩市の現状や都市農地の情勢について意見を交換した

農業者と市民を結ぶ活動

東京都農業経営者クラブ
東京都消費者月間実行委員会などが共催

農業応援バスツアー

東京都農業経営者クラブ（眞利子伊知郎会長）と都農業会議は、ともに連携して都内の消費者に農業への理解を深めてもらう活動に取り組んでいます。

11月22日には東京都消費者月間実行委員会との共催により、小金井市内において農業応援バスツアーを実施しました。

都内全域から40人の消費者が参加し、小金井市農業経営者クラブの協力により同クラブの会員農家が野菜や花きを生産するほ場を見学しました。また、見学終了後には集会施設において市内農家と参加者との意見交換を行いました。



市内農地を見学後、農業者と消費者の意見交換会を開催した

食と農セミナー

12月4日には、中野サンプラザにおいて東京都消費者月間実行委員会ならびに（公財）東京都農林水産振興財団との共催により「食と農セミナー」を開催しました。

都内の農業者と消費者が交流しながら共に学ぶ場をつくろうと企画されたもので、あわせて149人が参加しました。

前半は科学ジャーナリストの松永和紀さんを講師に迎え「食は科学で考える」その情報ホント？！」をテーマに講演が行われました。

松永さんは、消費者が考えている食の安全に関するリスクには誤りも多いことを指摘し、現在では農業について問題視するよりも天然の毒物や微生物に注意すべきと話しました。また、農業者と消費者の間にある意識の溝を埋めていこうと呼びかけました。

後半は参加者を10のグループに分け、それぞれ農業者と消費者が自由に意見

交換を行いました。参加者からは「農薬や野菜の栽培方法の話を率直にできてよかった」といった感想が聞かれました。



食の安全について講演する松永和紀さん

八丈町の農業経営を研究

関東ブロック農業法人交流会 in 八丈島開く

東京都農業法人協会（北島一夫会長）は関東都県農業法人協会と公益社団法人日本農業法人協会との共催により、11月19日～20日に関東ブロック農業法人交流会 in 八丈島を開き、関東都県内の農業法人経営者など約30人が参加しました。

国産ヒサカキ生産者の奥山完己氏、八丈島乳業株式会社、観葉鉢物生産者の菊池國仁氏の取り組みなどを見学しました。

法人化による農業経営や農業参入を研究

農業経営の法人化と農地の貸借・雇用の活用研究会開く

（一社）都農業会議では、12月4日と20日の両日に「農業経営の法人化と農地の貸借・雇用の活用研究会」を八王子市で開きました。

本年度は福祉事業と農業参入をテーマに「農業経営に伴う法人化の留意点」について岩崎紗矢佳弁護士による講演会、続いて八王子市に農業参入した（株）グッドホームの登坂信美代表（4日）、合同会社S O R A T A N Eの山口尚子業務執行社員（20日）よりそれぞれの

取組について話しを聞き、現地見学をしました。



現地研究で借り受けた農地の利用状況を説明する（株）グッドホームの登坂信美代表



玉石垣について説明をする菊池國仁氏

2月～3月の日程

- 2・1 金 組織・活動研
- 2・5 火 農委会活動研
- 2・8 金 組織・活動研
- 2・18 月 理事会
- 2・18 月 常設委員会
- 2・18 月 大会運営
- 2・22 金 農委会大会
- 2・28 木 中間管理会議
- 3・1 金 主任職員協
- 3・19 火 通常総会
- 3・19 火 常設委員会